

# 公共空間を活用する商店街再生に関する社会実験と社会実装

大分大学理工学部  
建築・都市計画研究室

○佐々木美祈, ○横田彩夏, 轟木龍介, 林成竣, 長弘颯太郎,  
宇土沙希, 後藤大輝, 西村凌, 松島大真, 吉田篤司, 清川智裕 ●指導教員 姫野由香



## 1. 地域の課題と事業の目的

### 【地域課題】

大分市中心市街地活性化基本計画第3期計画の4つの目標指標のうち、特に日常的な②歩行者交通量については、イベント開催をしてきたが効果を発揮していない。

▶歩くのが楽しくなるような公共空間を活用した取り組みが十分でない

大分市には商都復活支援事業としてイベントへの費用面の補助制度がある。

▶道路占有許可をはじめとする手続きが分かりにくい

### 事業目的

- ① 歩行者の滞留時間の延長
- ② 公共空間を利用した取り組みの体制構築
- ③ 運営手順の明確化

### 【協力主体】

大分市中心市街地活性化法定協議会, ガレリア竹町商店街振興組合, 竹西エリア地権者様 など



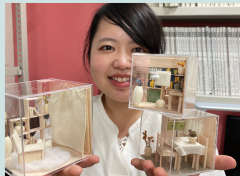
同時開催イベントチラシ

## 2. 事前準備

2022年6月よりイベントに向けた準備を開始



出店用屋台の製作  
(2022/10/4)



模型の作成  
(2022/10/1~7)



コンピュータグラフィックス  
による3Dイメージパース

## 3. 手続き

2022/9/13 大分市公共下水道物件設置兼占用許可 申請

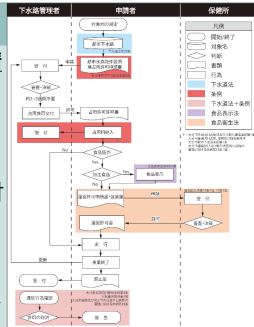
〈提出物〉

- ・大分市公共下水道物件設置兼占用許可申請書
- ・対象地周辺地図, 設置物品の図面
- ・対象地当日の図面 (平面図, 断面図)



→2022/9/27 交付  
実行委員会との  
打ち合わせ  
(2022年6月頃)

公共下水道占用  
手続きの流れ



## 4. 当日の様子

### 本事業の効果

#### ・多様な協力者との連携と波及効果

運営では実行委員会の他に、2組の法人との連携を実現した。また、そのうち1事業者は実行委員会が他の場所で行うイベントへの出店が決まるなど、このイベントを契機としたネットワークの広がりが見られた。

#### ・建築学生の参加によるまちの賑わいの創出

通常時にはほとんど利用されない路地(河川・公共下水道)に、当日は延べ120名の方に通り抜けて頂いたり、その先の駐車場をイベント広場として活用を頂いたりすることができた。「学生さんが常駐してくれたことで、路地に入りやすく、賑わいにつながった」「学生による路地のデコレーションの雰囲気よかった」などと、コメントを頂き、大変好評であった。実際に室外機カバーを兼ねて学生が作成した目隠し棚は対象地で現在も利用されている。商店街関係者からは、「今後もこの路地を活用したい」とのお言葉を頂き、微力ではあるが、今後の竹西エリアの活性化に寄与できたと考えることができる。

#### ・これまで利用されたことが無かった公共空間の利活用事例をつくった

今回の事業により、これまでに大分市中心市街地では確認できなかった「河川・公共下水道」の初の利活用事例を提供することができた。これにより、手続きの明確化と届出する際に留意すべき点などを整理することができた。また、公共空間の利活用のための課題も明らかにすることができた。

### ～参加した学生のコメント～

『普段利用されていない場所を使用することで、その場所を今後どう使用すべきかの可能性を探ることができた。』

『日常生活では生活圏の違い等で関わり合わない人達が、この事業を通して、関わりを持つことができたという点で地域の活性化に貢献できたと思う』

『単発のイベントではあったが、私たち学生が街に長時間滞在し、周辺店舗・地権者の方々と連携することで、にぎわいの創出や街を歩きつけかけになったと思う。』

